

# 令和5年度 学校評価報告書

学校名	三田市立志手原小学校
-----	------------

## 1 学校教育目標

自ら学ぶ意欲と方法を身につけた心豊かな志手原っ子の育成

## 2 今年度の学校重点目標

- ・基礎基本の定着を図り、確かな学力をつける。
- ・学校全体で協働して授業改善を進める。
- ・健やかな体を作るための力を育む教育を進める。
- ・豊かな人間性や社会性を培い、ともに伸びる姿勢を育む。
- ・地域の素材を活かした授業づくりに取り組む。
- ・安全で、豊かな教育環境の実現を図る。
- ・家庭や地域と課題を共有し、子どもの健やかな育ちを図る。
- ・適正な予算執行に努めると共に、明確な会計管理を徹底する。

## 3 総合的な自己評価

学校教育目標にそって、教育活動に取り組んでおり、子どもたちも生活目標や学習目標に向かって、日々前向きに取り組んでいる。学習指導では、朝の学習タイムや「ひょうごがんばり学びタイム」を含めて、授業の中で基礎基本の定着を図っている。また、iPadでドリル学習などのアプリを使うことにより、個人のスピードに合わせた取り組みも行っている。一方で宿題を含めた家庭学習の定着に向けて、今後も取り組んでいきたい。また、地域の人たちと交流したり、地域教材を発掘したりする地域連携にも引き続き取り組んでいきたい。生活指導では、全体的に落ちついて生活をしており、高学年が低学年の子どものお世話をする文化が根づいている。今後も、子どもたち自らが主体となって、よりよい人間関係づくりを考える機会を作り、取り組ませたい。また、基本的な生活習慣の定着については、保護者の協力も得ながら、家庭と課題を共有し、連携していきたい。

## 4 総合的な学校関係者評価

学力については、明確に判断できないので、学校からの評価を目安に判断したいと思います。子どもたちの基本的な生活習慣については、本来は、各家庭で担う部分が大いだと思います。が、安価で物があふれ、消費を促す誘惑があふれる中で、家庭だけでは難しくなっている部分があると心配します。ものを大事にしない、その場限りの行動など気になる点があります。生活リズムを心配します。保護者へのアプローチも難しいと思いますが、今後もしっかりと連携して子どもたちの成長につなげていただきたい。

## 5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育目標 教育方針	教育目標や重点目標を意識しながら、目標達成に向けて教育活動に取り組んでいる。	目標達成に向けて教育活動に取り組んでいる。特に、情報教育の研究を継続しており、学習の基盤として位置付け、授業を展開している。また、隣接している幼稚園との交流も行っており、子どもたちも楽しみながら活動している様子が見られる。	自ら学ぶ意欲と方法を身に付けるために学年に応じて、引き続き、様々な取り組みを展開していく。幼稚園との交流も機会を継続する。	学ぶことが楽しい、知ることが喜びと感じられることにつなげていただきたい。また、来年度は小野幼稚園での保育になるが、交流は、ぜひ続けてほしい。
	期待する児童像の実現に向けて、家庭や地域と連携して学習面・生活面に取り組んでいる。	学校教育目標に沿って、教育活動に取り組んでいる。子どもたちも学習目標や生活目標に向かって、日々前向きに取り組んでいる。子ども達が前向きに目標へ向かう姿勢を大事にしながら、さらに自ら考えて活動する態度を育てていきたい。	教師が子ども一人一人に手厚く関わることのできる小規模校のよさを生かしていく。今後も継続して、子ども達が目標に対して前向きに取り組んでいる過程を、ほめて伸ばす指導で取り組んでいく。	子どもは、目標に向かって頑張っており、引き続き小規模校のよさを活かしてとりこんでほしい。
教育課程 学習指導	週時程や学校行事の年間計画は、内容や取組時間が適切であったか	年間計画にもとづき、学校行事、授業などが計画通り実施できている。子どもたちは、行事に向かって一生懸命取り組む姿が見られ、自己評価、保護者の評価も高くなっている。授業時数は、しっかり確保され、余剰時数も多くなっている。	余剰時数が多いため、授業時間数の見直しを行う。参観日の日に保護者説明会を行うなど効率的に行っていく。	学校行事の成果には満足しています。
	基礎的・基本的な内容を習得させ、思考力・判断力・表現力を高め、確かな学力の向上に取り組むことができたか	基礎的・基本的な内容を押さえて、指導しているが、確実に理解し、習熟させていくまでには、いたらない状況が見られる。	ICT教育の研究の成果もあり、子どもたちは情報機器の扱いは能力が高い。家庭学習でもミライシードに取り組む事もあり、情報機器が基礎学力の向上に役立っている。また教科書とノート、黒板とチョークを使つての学習も必要である。様々なツールを場面に応じて適宜使い分け、基礎基本の定着に努める。また、プリントなどを活用して問題演習に取り組むなど、今後とも指導方法の改善や工夫を続けていく。	習熟には家庭学習が必須と考えます。家庭事情によって難しい面があるとは思いますが、自ら学ぶ意識を高め、保護者が宿題に少しでも関わっていただけるように啓発していただきたい。
命と人権を大切に する教育を 充実させ、 豊かな心を 育む取組が できたか	命と人権を大切に する教育を 充実させ、 豊かな心を 育む取組が できたか	「やさしさの花」の取組で、人の良い姿を見つけようと働きかけた。また、人権標語を作る取組では、人権について考える時間を持った。運動会と音楽会の保護者からの「ほめほめメッセージ」を掲示し、たくさんの褒め言葉で自尊感情が高める環境づくりができた。また、「志階段」の取組をしており、一段一段に子どもたちが選んだ名言・格言・パワーワードを掲示している。	「やさしさの花」「人権標語」「ほめほめメッセージ」「志階段」の取組を続けていく。また、取組の「啓発」が不十分であると思われるので、次年度は「啓発」にも力を入れていく。	子どもの自己肯定感が高くなるように日々、ご指導していただきたい。
	体力の向上や 毎日を健康で 安全に過ごす ための教育を 充実させ、 健やかな体 を育む取組 ができたか	休み時間を利用して運動に親しみ、子ども一人一人に応じた体力の向上に努めている。保健体育委員会の活動としてもラジオ体操やジョギング、縄跳び検定、ボール遊びなどを行い、体づくりを行った。また、保健指導も定期的に行い、健康管理に注意することや保健だよりの発行で保護者への協力も呼びかけている。	今後も継続して体力向上や健康増進のため、休み時間を利用したり、委員会で活動したりして運動に親しむ機会をつくる。そして、一人一人に応じた体力の向上に努めていく。また、自分自身の体調や健康について、理解を深めて、自己管理し、健康の保持増進をさせ、健やかな体を育んでいきたい。	放課後でも運動場で外遊びをしている光景をよく目の当たりにする。他の学校では珍しくなっている。安全に気をつけて健やか体を育んでほしい。
研修・研究	研究テーマに 則してICTを 活用した授 業づくりが できた。	ICTを活用した授業が定着しており、教科の特性に応じた授業づくりができています。また、プログラミング学習を本校の研究課題として取り組み、各学年で学びを深める授業づくりを提案できた。	プログラミング学習の研究が本校の特色である。4年間の研究成果と子どもたちの学習の積み重ねをもとに、継続してプログラミング学習に取り組む。また、総合や生活科ばかりでなく教科を広げて取り組んでいく。	志手原ならではのプログラミング教育が今後も継続し、子どもたちの将来に活かせることを願います。
	仲間との つながりを 大切にし、 学びを 深めていく ことが できた。	1人1台の端末を利用して、自分の意見や作品を作成し、発表することができている。また、学習過程において、仲間と情報を共有したり修正したりするなど端末を効果的に利用し学びを深めている。	学習過程において、仲間とのつながりを大切にしていける能力や技能、情報モラルを随時指導していく。また、情報活用能力や言語能力、問題発見・解決能力を引き続き育成していく。	指導されている情報モラルの具体的な内容を知りたい。高学年においては、SNSの危険性を注意喚起に取り組んでほしい。

生活	気持ちの良い挨拶をしたり、人を思いやった場に応じた言葉遣いができたりするよう指導している。	挨拶・言葉遣いについては、児童の評価は高いが教師と保護者の評価は共に高くない。子どもは、「自分は挨拶をしている」「適切な言葉遣いをしている」と思っているがまだ十分でない。	「挨拶はしている」「適切な言葉遣いをしている」が大人には伝わっていないのはなぜかを子どもたちに考えさせる。そして、子どもたち自ら「挨拶運動」を実施していくように支援していく。また、学級でも「伝わる挨拶とは？」を考えさせ、意識を高めていく。	「挨拶」の大切さはスムーズなコミュニケーションのはじまりですから、ぜひ身につけてほしいと思います。
	「学校いじめ防止基本方針」に基づき、児童一人一人の悩みや不安に寄り添い、深い児童理解に根ざした指導ができた。	保護者も子どもたちも「先生は子どもを大切にしてくれている」と感じている。子ども一人一人の悩みや不安に寄り添い、相談ごとにも組織的に対応している。	今後も一人一人の子どもを大切にしていける取り組みを継続していく。また、課題に対しては、情報を共有し、生徒指導に対して組織的に対応していく。	一人一人にしっかりと寄り添っていただいていると思う。
	食育を通して、子どもたち自身を見つめ直し、生活改善に取り組み、生活習慣を向上させることができたか	食育については、栄養教諭から給食時間中に、三田の農作物や季節の食材等について指導を実施した。また昨年度より継続してZOOMを活用した食育の動画配信も行っている。健康への取り組みについては、全学年に歯と口腔の健康について保健指導を実施してきた。しかし、学びが家庭生活へ反映されていない現状もある。	学校のみでの指導だけでなく、長期休業中や健康週間等を活用し、継続して食育や健康管理について啓発を行っていく。また「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣については、家庭の協力も必要であるため、保護者へ啓発していく。また、各学年の職員と連携し、懇談時等で子どもの学校生活での様子を共有する。	生活改善、生活習慣の向上につながるので今後も取り組んでいただきたい。食育について、地元で米や野菜を生産しているので、活用してみてください。
学校・家庭・地域との連携	「地域とともにある学校」づくりを推進し、課題を共有して情報提供を積極的に行い、共に教育に取り組むことができた。	学校通信や学年通信、研究だよりなどを定期的に発行し、情報を発信している。また、ホームページには、学校通信や研究だよりを月ごとに掲載し活動内容を知らせている。学校通信は、区長会を通して地域に回覧したり、学校運営協議会の委員や上野台中校区の小中学校に配付をしたりしている。	これまでどおり継続して情報発信を行うとともに、学校運営協議会などで子どもたちの課題を共有する。	情報発信だけではなく、交流の機会を積極的にいただき、その応援をしていきたい。
	志手原校区地域づくり協議会や学校支援ボランティア、地域の人材を活用した教育活動を積極的に取り組むことができた。	地域とのつながりも深く、朝の見守り活動、図書ボランティア、放課後子ども教室など各関係者や地域の方々の協力や支えにより学校の教育活動が成り立っている。	今後さらに保護者や地域の方々と連携した教育活動に取り組んでいく。また、地域の方々とたくさん触れ合う機会をもつことにより、子ども達に自分たちの学校や地域に愛着や誇りを醸成させていきたい。	短時間の協力だけでなく、年度当初の掃除の時間や給食の補助など依頼があれば学校支援ボランティアに声かけをすることができるので、利用される時は、言っていただきたい。